

保健省 HIV/AIDS 予防局と HIV 薬剤耐性への対応について議論
(2022 年 8 月 18 日)

我々の実施している SATREPS プロジェクトの最終目標は、各種研究結果に基づき、ベトナムにおける HIV/AIDS 対策に対しての政策提言を行うことにあります。そのためには、病院での臨床レベルでの各種活動に加えて、政策策定・実施機関である省庁、特にベトナムにおいて HIV/AIDS 対策を一元的に行っている保健省 HIV/AIDS 予防局 (VAAC) との協働が欠かせません。コロナ禍においても機会を見つけてオンラインで、或いはハノイのプロジェクトメンバーで VAAC との議論は続けてきましたが、今回プロジェクトリーダーである国立国際医療研究センター (NCGM)・エイズ治療・研究センター (ACC) センター長である岡先生のハノイ出張機会 (コロナによる渡航困難な時期を経て約 3 年振り!) を捉えまして、今年 5 月に新たに VAAC 局長に就任しました Phan Thi Thu Huong 局長と会談しました。



SATREPS プロジェクトから岡先生、松本専門家、永井専門家が研究中間結果を報告



VAAC 局長始め、前向きな反応が得られ、今後より緊密に協働していくことができ、良い会議となりました!

プロジェクト側からは開始後 3 年を過ぎた段階での中間結果を報告し、その中で HIV ウイルス薬剤耐性検査の重要性が改めて示されました。もしウイルスが変異し、特定の薬剤に対して耐性を持ち始めれば、どれだけ薬をきちんと飲んでもウイルス量を抑えられません。そのため、ウイルス量が下がらない HIV 感染者に対して薬剤耐性検査を実施し、耐性の現状を把握し、必要に応じてウイルス量をきちんと押さえられる薬に変更していくことが大事です。また逆に、ウイルス量が下がらない理由は必ずしも薬剤耐性ウイルスではありません。服薬がきちんと出来ていないことも考えられます。その場合においても、薬剤耐性検査で治療が上手くいかない理由が耐性ウイルスでないことを確認し、不必要に (往々にしてより高価な) 薬に変えることなく、現在処方されている薬をきちんと服用する指導することが効果



JICA-SATREPS プロジェクト

ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



的です。プロジェクトからは、ベトナム HIV ケア提供者の薬剤耐性 HIV に関するキャパシティビルディングを目的に、臨床家に対するワークショップを実施し、臨床の場で活用できる HIV 薬剤耐性参考書 (HIV Drug Resistance Knowledge Book (仮)) を作成することを VAAC に提案し、協力を依頼しました。

プロジェクト側からの発表を受けてベトナム側 VAAC・Huong 局長からは、同局が薬剤耐性ウイルスに対処する行動計画を実施中であり、現在までのところ耐性ウイルスの蔓延は抑えられているというプロジェクトの研究結果を歓迎しました。その一方で、薬剤耐性にどう対処していくか、薬剤耐性検査結果をどう治療に活かしていくかについてはベトナムとしてのガイドラインはまだ存在せず、それを作成していく VAAC の専門家会合 (Technical Working Group) へプロジェクトに積極的に参加して欲しいと意思表示がありました。

現在ベトナムにおいては薬剤耐性検査が医療保険でカバーされていない、また検査実施機関も限られているなどの課題もあります。ただ、これから更に HIV 治療の効果を高めていくためには、薬剤耐性検査を行い、処方されている薬が実際効いているのかをきちんと確認していくことはとても大事なことです。さらに一歩先のより良い HIV ケアを提供する一助となれるよう、今後も保健省 HIV/AIDS 予防局との連携を密にし、同局への政策提言を積極にしていきます。